

第4学年の実践 令和6年度 社会科 「わたしたちのくらしとごみ」

【育成を目指す創造的な資質・能力の素地】

地域社会をよりよくしたいという願いをもち、ごみを減らすためにできることについて家庭や地域にどのように提案するかを考える活動を通して、実社会で活躍する人などとの対話を大切にし、問題の発見・解決に資する情報収集に進んで関わろうとする態度を身に付ける。

知る 見つける

① 相手意識をもって取り組むための単元設定

ごみ処理場の課題を学習し、関連させて家庭の「ごみ調べ」を児童が行う。身の回りの現状や、家庭で実際に行っている「ごみを減らす取組」について具体的に知ることで、児童が社会問題の解決に向け、相手意識をもって課題設定を考えられるようにする。



考える

② 「人・もの・こと」と関わり探究する学習の流れの工夫

ごみの捨て方の良いところや課題…PMI チャート
3Rの視点で取組の分類…Yチャート
キャッチコピーの作成…クラゲチャート
単元の中で思考ツールを効果的に取り入れ、思考を視覚的に整理することで、児童が自分たちにできる活動を考える手掛かりにできるようにする。



考える

③ 自他のよさに気付かすための話し合いの場の設定

学習したり調べたりしたことから、児童が自分で考えた「ごみを減らすためにできること」を交流し合う場を設定する。ごみを減らすために家庭で行っている取組や、他の人が考えた取組について交流し合うことで、活動のアイデアを増やしつつ、自分や友達のよさに気付かせる。



やってみる

④ 多様な表現や関わりを生み出す ICT の活用

学習のまとめでは、児童がタブレット端末を活用してポスター作りに取り組む。ポスター作りには、イラストと「特に伝えたい言葉」のキャッチコピーを入れるテンプレートを3種類用意する。タブレット端末で作成することで、言葉やイラストを、繰り返し改善・修正できるようにする。



令和5年度 総合的な学習の時間 「どうする大森麦わら細工」(学習の流れ)

知る 見つける

大森麦わら細工を知ろう

地域に伝統工芸があることを知り、実物を見たり、認知度調査を行ったりすることを通して、課題を設定する。



考える

深く知ろう

郷土博物館の学芸員や保存会の方から話を聞いたり、張り細工体験をしたりして、大森麦わら細工の理解を深める。



やってみる

広めよう、伝えよう

大森麦わら細工について、より多くの人に伝えるための活動を考え、実際に広報活動（動画製作、ポスター掲示、チラシ配布など）に取り組む。

